※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０１９

令和５年度　商業科

教科	商業	科目	情報理論	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	令和５年度 全商情報処理検定 模擬試験問題集 ビジネス情報１級（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

情報処理の実技で学習した内容をもとに、より高度な内容を主に机上で学習します。少なくとも２・３級の内容を理解してから臨まないと、取り組むことが多くなりすぎて大変かもしれません。興味をもって取り組まないと理解することが難しいと思われる内容も含まれます。
また、日頃から情報機器を使用するとき、どのようなシステムが使われているか意識し、ビジネスや情報などに関する新聞・テレビニュースなどに気を配り、家の人や友人と学習した用語などを使って話をしてみると、理解が深くなります

２　学習の到達目標

⑴企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。
⑵企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身につける。
⑶企業活動を改善する力の向上をめざして自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身につけている。	ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価基準	評価方法		
				知(ａ)	思(ｂ)	主(ｃ)
1	ハードウェア・ソフトウェアに関する知識	・情報通信分野における様々な機器や技術に関して、基礎的な知識を身につける。	a:各分野における基礎知識を理解している。 b:表計算ソフトウェアを利用して効率的な処理をすることを考えることができる。 :処理の方法について主体的に考えることができる。	練習問題 演習 定期考査 小テスト	練習問題 演習 定期考査 小テスト	提出物 小テスト 観察
	通信ネットワークに関する知識	・情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。				
	情報モラルとセキュリティに関する知識	・情報資産を保護する重要性や方法について学習する。				
	計算問題トレーニング	・信頼性や通信速度、記憶容量等の計算に関する知識を身につける。				
	データベースソフトウェアに関する知識	・データベースを設計するために、データの正規化とE-Rモデルについて操作方法を学習する。 ・必要なデータベースソフトウェアの操作方法を学習する。				
2	ハードウェア・ソフトウェアに関する知識	・各分野における模擬問題演習	a:各分野における基礎知識を理解し、応用することができる。 b:表計算ソフトウェアを利用して効率的な処理をすることを考え、数式に反映させることができる。 c:処理の方法について主体的に考えることができる。工夫することができる。	練習問題 演習 定期考査 小テスト	練習問題 演習 定期考査 小テスト	提出物 小テスト 検定試験 観察
	通信ネットワークに関する知識					
	情報モラルとセキュリティに関する知識					
	データベースソフトウェアに関する知識					

※令和４年度以降入学生用

3	表計算とデータベースに関する知識・技術をもｔにした課題解決 処理の自動化について知る	・表計算とデータベースに関する知識・技術をもとに問題解決する能力を身につける。 ・マクロ機能の基礎を身に着け、調べながら利用することができるようになる。	a:各分野における基礎知識を理解し、応用することができる。 b:表計算ソフトウェアを利用して効率的な処理をすることを考え、数式に反映させることができる。	練習問題 演習 定期考査 小テスト	練習問題 演習 定期考査 小テスト	提出物 小テスト 検 定 試 験 観察

※　表中の観点について　ａ：知識・技能　ｂ：思考・判断・表現　ｃ：主体的に学習に取り組む態度